

「暮らしを守り、支える水道水」

光塩女子学院初等科

五年B組

小林 こばやし

愛佳 あいか

「え！二百八十リットルも使うの！」

日本水道新聞社のことも水道新聞を読んでいたら思わず声が出てしまった。その新聞によると、日本では一日あたり二百八十リットルほどの水を使うというのだ。お風呂でたくさんの水を使う事は知っていたものの、二百リットルほど使うと聞いた時もまた驚いた。本当かうたがいたくなかったが、本当らしい。

光塩女子学院

最近ではミネラルウォーターを飲む人も多いが、一本五百ミリリットルのミネラルウォーターにおきかえて計算すると一日に約六万円ほどかかる事になる。驚くと同時に「日本にはきれいな水道水がいつでも飲めてよかった」と安堵した。

東京都水道局では、SDGsの実現にも貢献している。太陽光発電や水力発電による再生可能エネルギーの導入、浄水場で発生した土の有効利用、ペットボトルをマイボトルに

し、プラスチック使用量の削減などだ。生活に欠かせない水道水だからこそ環境によりそっていかなくてはいけないと思う。これからも水道水を飲んでいくために、国民一人一人が水源である自然を大切にしておいて水道水を飲んでいけたら良いと思う。

時代によって人々の生活、文化、求める物が変わっていったとしても、水道は必ず求められるはずだ。皆、生きるために。

私は小さい頃、「水道料金はなぜかかるの

光塩女子学院

？ただきれいな水が飲めるだけなのに」と思っていた。でも、今は水道水のありがたさが身にしみるような機会がたくさんある。たとえば、一日に水をミネラルウォーターだけでまかなうとどれくらいかかるか調べた時、とてもはらい続けられる事のない六万円ほどという金額。でも、今は水道水によって生活が支えられ、千二百分の一ほどの値段ですんでいる。

また、蛇口から出る水道水の裏にはたくさ

んの方々の汗のにじむような努力が出ほど隠
 されている。たとえば、小河内ダムでは、建
 設中に八十七人の方が亡くなられた。そして、
 ダムの建設現場で働いた人は、何日も何日も
 山にこもり、家へ帰らずにダムづくりで専念
 したと聞いた。それだけ、きれいな水を蛇口
 に届ける道のりは険しく、長かったのだと思
 う。

「きれいな水を飲む事ができる」それは、
 たくさんの人の努力、お金にかえられない命

光塩女子学院

によって築かれていったのだと思った。ただ
 の水といえはそうかも知れない。でも、その
 水が私達の暮らしを守り、支え、明日へと向
 かわせてくれるのかもしれない。

蛇口から水を飲める。そんな私にとって当
 たり前の事は多くの人達の協力、苦勞によっ
 てできていると知って、もっとたくさんの人
 においしい水道水を飲んでもらいたいと思っ
 た。あなたを明日へと導く水道水。

水道局の方々に感謝しながらこれから水

道水を飲んでいきたい。

水道局の方々、いつもみんなのため
に働いてくださりありがとうございます。
これからもたくさんの人々の暮らしを
守り、支えてください。

光塩女子学院